

## 第1回政府間準備会合 (Preparatory Committee) への参加

■日時：2014年7月14日(月)、15日(火)

■会場：国際連合 ジュネーブ事務局

■主催：UNISDR (国連国際防災戦略事務局)

### ■実施背景・目的：

「第3回国連防災世界会議」に向け、11カ国からなるビューロー(地域代表幹事国)が正式に決定され、各国政府代表、国際機関、認定NGOらが初顔合わせを行った会議となりました。2015年3月の本体会議の運営や「ポスト兵庫行動枠組」の策定プロセスが議論され、発表されました。

JCC2015 共同事務局で国連認定NGOであるピースボートのほか、JCC2015参加団体からも国際ネットワークを通して複数名が会議に参加したほか、同じく共同事務局を務める国際協力NGOセンター(JANIC)が会議に向けた特別認定団体として承認されました。JCC2015とともに国連防災世界会議の公式開催パートナーを務める国際NGOとの協議、共同声明の発表など、国連や政府間だけでなく、CSO(市民社会組織)も積極的に参加する防災・減災の取り組みの必要性をアピールしました。

### ■NGOメジャーグループ 公式開催パートナー4団体：

- ・ Tearfund (GNDR: Global Network for Disaster Reduction)
- ・ Climate Action Network - International (CAN-I)
- ・ Huairou Commission
- ・ Peace Boat (Japan CSO Coalition for 2015 WCDRR)

### ■第1回政府間準備会合 参加者：

各国政府代表、地域協力機構、国際機関、NGOメジャーグループなど 600名以上

※JCC2015参加団体からは、男女共同参画と災害・復興ネットワーク、チャイルド・ファンド・ジャパン、ピースボート災害ボランティアセンター、SGIらが参加

### ■当日の様子：



開催にあたり、タイとフィンランドを議長国として、エクアドル、チェコ、バングラデシュ、エジプト、ジャマイカ、ロシア、南スーダン、スイスの8カ国、そしてホスト国である日本の計11カ国が「第3回国連防災世界会議」のビューロー(地域代表幹事国)に決定しました。

東日本大震災における日本の市民社会の経験を「ポスト兵庫行動枠組」に反映させるため、6月に行われた「第6回アジア防災閣僚級会議」にはJCC2015を始め、日本から多くのNGOが参加して直接声を届けました。一方で、政府間準備会議では参加資格が国連認定NGOと特別認定NGOに限られるため、公式開催パートナーとして各団体

の知見を持ち寄り、共同で提言を出しました。

また、2015年3月の本体会議と並行して実施されるパブリックフォーラムの応募方法に関する案内が行われましたが、多くの海外のNGOからは「会議の全体像を詳しく知りたい」「国内外問わずCSOが自由に集まれるスペースが欲しい」との声もあり、JCC2015がコーディネートし、海外NGOと日本の市民が学び、出会う環境づくりに向けて調整を進めることになりました。

【参考】 NGOメジャーグループによるポスト2015兵庫行動枠組への共同声明

[http://www.globalnetwork-dr.org/images/documents/Post-2015/CS\\_2014\\_position\\_paper\\_12-page\\_A4\\_EN.pdf](http://www.globalnetwork-dr.org/images/documents/Post-2015/CS_2014_position_paper_12-page_A4_EN.pdf)